資料３

授業料等の設定について

１　必要経費の概算について（学修者３人で積算）

	１年次	２年次	計
座学	・聴講生制度　444 千円 （29.6 千円×５科目×３人） ・テクノスクール訓練　318.8 千円 （0.5 千円※1×212.5ｈ×３人）	・聴講生制度　88.8 千円 （29.6 千円×１科目×３人） ・テクノスクール訓練　225 千円 （0.5 千円※1×150ｈ×３人）	1,076.6 千円
実技	・講師謝礼金　375 千円 （５千円※2×1.5ｈ×50 週） ・燃料費　415 千円 （コークス、ガス等） ・消耗品費①　650 千円 （和釘材料、砥石等） ・消耗品費②　540 千円 （包丁材料） ・光熱水費　415 千円	・講師謝礼金　375 千円 （５千円※2×1.5ｈ×50 週） ・燃料費　415 千円 （コークス、ガス等） ・消耗品費①　650 千円 （和釘材料、砥石等） ・消耗品費②　900 千円 （包丁材料） ・光熱水費　415 千円	5,150 千円
その他	・事務局経費　1,200 千円 （100 千円×12 月）	・事務局経費　1,200 千円 （100 千円×12 月）	2,400 千円
計	4,357.8 千円	4,268.8 千円	8,626.6 千円

合計 8,626.6 千円÷３人÷２年≒**1,438 千円**（１人当たり１年間の必要経費）

※１　三条テクノスクールのレディメイド型訓練の費用から計算
　　１講座 5,700 円／標準 12 時間≒0.5 千円／ｈ
※２　大学講師級５千円／ｈで計算

２　授業料等の設定について
(1) 論点
・学修者を確保できる現実的な金額はいくらか。
・高すぎる金額は学修者の負担となる一方で、低すぎる金額は本気でない人材からの応募につながってしまう恐れがある。
・持続可能性のある収益体制構築のため、国の補助金には頼らない方向で検討する。
・支払い回数や時期についても併せて検討する。
・本事業の最小実施学修者数は何人にするか。
・学修者数が減るほどに、１人当たりの必要経費は増額していく。

(2) 学費の例

○鍛冶屋創生塾（打刃物、高知県）

授業料：770 千円／１年目（研修料 220 千円＋材料・光熱費 550 千円）

870 千円／２年目（研修料 220 千円＋材料・光熱費 650 千円）

○飛騨職人学舎（家具、岐阜県）

授業料：研修期間の２年間は無償、３年目～運営会社で雇用

○多治見市陶磁器意匠研究所（陶磁器、岐阜県）

授業料：334.5 千円／年（実習料 242 千円＋入所料 62.5 千円＋教材費 30 千円）

研修期間：１～２年（コースにより異なる）

○三条市立大学

授業料：536 千円／年

実習料：60 千円／年

○三条テクノスクール

授業料等：スマート FA 技術専攻　401 千円／２年

工業デザイン専攻　330 千円／２年

生産システム専攻　430 千円／２年

(3) 市の負担

本拠点事業の実施方法によるが、市でも一定の負担を検討する。

(4) 見直し

本拠点事業に要した費用は毎年度確認、検証を行い、２年１期毎に授業料見直しの検討を行う。